

「2025 年度東アジアジュニアワークショップ参加報告書」

京都大学文学部 2 年 吉田瀬梨羽

① 学習成果

学習成果は大きく分けて 2 つあります。英語に関する成果と一つのテーマについて調べて、発表するという経験から得た成果です。前者に関しては、発表準備や英語の講義を通して英語を「読む・聞く」学習習慣が身についたことが一番の成果でした。後者に関しては、発表テーマについて理解が深まったのはもちろん、発表準備そのものの過程から得たものが大きかったです。自分でテーマを決定し、それに関して調べ学習を行い自分なりにまとめ、発表するという一連の流れを初めて経験しましたが、それぞれの段階ごとに想像の何倍も時間が必要でした。また、「最初のテーマ決めの重要性」や「調べたことをまとめて言葉にする難しさ」など、「レポートの書き方」などでよくいわれることかもしれませんが、経験してみても初めて本当にその通りなのだと知りました。大学生のうちにこうした経験をさせていただけて良かったです。

② 渡航先での経験

合同発表で盛んに質問が飛び交う様子や、他大学の同年代のメンバーの発表の質の高さなどが印象的でしたが、なかでも特に記憶に残っているのは各人が積極的に会話に参加していく姿勢です。渡航先では発表の間の休憩や食事、移動など空白の時間がとても多いのですが、そのときに生徒・先生また、大学関係なく活発に会話がなされていました。このとき、それぞれの会話の引き出しの多さにとても驚きました。同時に、自分の視野のせまさを痛感しましたが、この経験からもっと色々なことを知りたいと思うようになりました。

③ プログラム内容

オンラインで何度か講義を受講したのち、発表準備に移ります。6 月中旬ごろに最初の発表練習を日本語で行うので 5 月頃から内容を考えます。最初の発表が終わったら、英語での発表練習を何度か繰り返し、本番を迎えます。現地では、最初の 2 日間で合同発表が行われ、残り 2 日間で NTU の生徒の方々主導のもと大学混合のグループに分かれ、現地を案内していただきました。

④ 進路への影響

海外に渡航する経験を含むプログラムにはじめて参加しました。たった 5 日間ではありますが、慣れ親しんでいない国で自分が何に不安を感じ、何が意外に大丈夫と感じるかなど、国を越えてみないと知っていても分からないことがあるのだと感じました。この経験を一度で終わらせたくないと思ったので、大学卒業後の進路選択の軸の一つとして、海外派遣の機会があるかに着目するようになりました。